



図6. 金武町の休耕田のギシギシ。コガタリハムシの発生は確認されなかった。

で得られていたものの、特に気に留めることもなく記録されるに至らなかった可能性も考えられる。そのため、各大学や博物館等に収蔵されている古い標本の調査も必要であると考えられる。加えて、沖縄島での今後の分布状況の変化に留意する必要があると考えられる。

## 謝辞

本報を執筆するにあたって、コガタリハムシの分布について情報提供をしてくださった(国研)農研機構九州沖縄農業研究センター(糸満駐在)の吉武啓博士、沖縄県病害虫防除技術センターの河村太氏、沖縄県畜産研究センターの担当者の方、東京都の南雅之氏、本報の校閲をしてくださった埼玉県の滝沢春雄博士に厚くお礼申し上げる。

## 引用文献

- Kimoto, S., & J. L. Gressitt, 1966. The Chrysomelidae of the Ryukyu archipelago. *Pacific Insects*, 8 (2) : 467-577.
- Löbl, I., & A. Smetana, 2010 (eds.). *Chrysomeloidea. Catalogue of Palaearctic Coleoptera*, 6. 924 pp. Apollo Books, Stenstrup.
- 滝沢春雄, 2007. 日本産ハムシ科生態覚書(2). 神奈川虫報, 小田原, (157) : 17-26.
- 筒井 等・早川博文・後藤千枝・花田 勉, 1988. 北海道十勝地方におけるコガタリハムシの発生. 北日本病虫研報, 39: 203-205.

(2019年1月10日受領, 2019年2月14日受理)

## 【短報】エゾクロチビオオキノコの本州からの記録

エゾクロチビオオキノコ *Tritoma miyatai* Narukawa, 2010 は、北海道で採集された標本に基づいて記載された種(Narukawa, 2010)であり、原記載以降の記録はない。本種は一見、クロチビオオキノコ *Tritoma niponensis* (Lewis, 1874) に似るが、小顎髭(図2)が黄褐色でその末端節の幅が長さの約2倍であること等から区別される(Narukawa, 2010)。

筆者は、長野県において本種を採集しているので、本州初記録として以下に記録する。なお、全ての個体について、筆者採集・保管。

4 exs., 長野県千曲市冠着山, 19. V. 2017; 1 ex., 長野県東筑摩郡筑北村一本松峠, 11. XI. 2017.

採集地はいずれもアカマツ林であり、冠着山では広葉樹(樹種不明)枯れ枝に生えたキノコ(種不明)より、一本松峠ではリターのツルグレンにより採集した。

末筆ながら、採集地を紹介して頂いた安達誠文氏(長野市)及び本種と同定頂いた生川展行氏(鈴鹿市)に厚く御礼申し上げます。

## 引用文献

- Narukawa, N., 2010. Two new species of the genus *Tritoma* (Coleoptera, Erotylidae) from Japan. *Japanese Journal of systematic Entomology*, 16 (2) : 285-290.

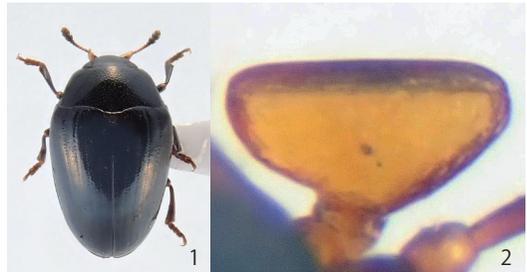


図1-2. 長野県産エゾクロチビオオキノコ。(1:背面, 2:小顎髭)。

(矢崎耀一 388-8007 長野市篠ノ井布施高田652-1-303)